

授業科目(ナンバリング)	中国語 I B (AC116)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>この授業は、1 年次から初めて学ぶ「中国語 I A」に引き続き、2 年次で開講される「中国語 II A・B」と「中国語会話」の前段をなすもので、中国語学習の“入門”に当たる。従って、この授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>①中国語で簡単な自己紹介ができる。  ②簡易な中国語の読み書きができる。  ③リスニングとスピーキングはスムーズにできる能力を見につける。</p> <p>これらを通して、次年度の中国語運用能力のアップにつながり、社会人として必要な幅広い教養やホスピタリティの精神を身につけてもらいたい。</p>							①③⑦⑧⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	中国や中国語圏域の国々の社会情勢を的確に把握することができる。中国人留学生とディスカッションすることができる。				課題レポート	5%	
コミュニケーション力	授業で学んだ基礎中国語を用いて、中国人及び中国語圏域の人々とコミュニケーションを図ることができる。				プレゼン 定期試験	20% 50%	
協働・課題解決力	積極的に中国や中国語圏域の国々の歴史や文化に取り組むことができる。				出席カードコメント欄の内容	10%	
多様性理解力	基礎文法を理解し、表現(読み取り・書き)することができる。中国の文化などを理解し、互いに交流を深めることができる。				小テスト 課題レポート	10% 5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験の成績を 50%とし筆記試験を行う(択一式、穴埋め式、など、持ち込み不可)。  課題レポートは、11 回目に DVD で見た内容に関する課題を問う。  授業毎に、中国語で出席を確認し、同時に書く練習や発音練習、グループワークや発表などを加え、授業への参加意欲を評価材料とする。  授業の最終 2 回で中国語を用いて簡単な自己紹介文を作成し発表する(原稿なしで 1 人 2 分間)。  また、ポートフォリオの課題、レポート、小テストなどのフィードバックを授業で行う。ポートフォリオでも、課題などのフィードバックを行うので確認すること。なお、不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話などの使用、居眠りなど)は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>基本的に教科書に従って授業を進める。授業中に極力 1 人ひとりに話してもらえよう時間を取り、スムーズに言えるようになるまで練習する。中国語 I A で学んだ発音や初級文法を確認しながら、より実践的な内容を進む。習ったことの定着を図るために、定期的に小テストを行う。簡単な自己紹介を発表できるように個別指導を実施する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：教科書：野村邦近 [著] 『はじめての中国語』 株式会社ナツメ社  参考書：必要に応じ指示する  指定図書：教科書：野村邦近 [著] 『はじめての中国語』 株式会社ナツメ社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>将来、観光業界などで活躍するために、中国語の習得も条件の 1 つであろう。また、グローバル化が進んでいる今日、中国や中国語圏(シンガポール、マレーシアなど)の国々に対する理解においても重要な科目である。中国語で簡単なコミュニケーションができるようになることを期待している。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の進め方及びスケジュールを把握する	・シラバスを読む ・前期筆記試験の回答・復習
2	発音の復習	中国語 I A で学んだ発音などの復習	・CD1-17 の発音を聞き、発音の復習をする
3	基礎文法の復習	中国語 I A の定期試験の解答及び訂正	・基礎文法の練習（配布した宿題を作成する）
4	動詞述語文	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表する（実践応用）	・CD2-13 の発音を聞き、動詞述語文について調べ、練習問題を作成する（宿題）
5	動詞・副詞・動詞使役用法	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用）	・CD2-14 の発音を聞き、使役用法について調べる ・練習問題の作成（宿題）
6	反復動詞疑問詞・選択疑問詞・数字疑問詞	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用）	・CD2-15 の発音を聞き、疑問詞の種類を調べ、宿題の作成
7	特殊な動詞	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用）	・CD2-16 の発音を聞き、特殊な動詞について調べる（宿題）
8	存在、方位詞	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用）	・CD2-18 の発音を聞き、存在、方位詞の練習（宿題）
9	前置詞、程度補語	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用）	・CD2-19 の発音を聞き前置詞、程度補語の練習（宿題）
10	主語述語文	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用）	・CD2-20 の発音を聞き主語述語文の練習（宿題）
11	能願動詞・助動詞	テーマにおける文法と基本構文の練習（グループワークで発音練習を確かめ合い）・発表（実践応用） DVD で中国の実情について	・CD2-21 の発音を聞き能願動詞の練習（宿題） ・課題レポートの作成
12	挨拶文の総まとめ	テーマにおける挨拶的な表現の総合練習・発表	・配布資料の講読、暗唱する
13	自己紹介文	基礎文法と基本構文を取り入れた自己紹介文の作成、練習する（実践応用）	・自己紹介文の作成、発表準備
14	自己紹介	自己紹介文に沿った発表（実践応用）	・テストの準備
15	まとめ	前期の学習内容の振り返り、重要な文型と表現などの総復習及び確認 練習問題の質疑応答・模擬テスト	・文法の総まとめ（宿題） 定期試験の準備
16	定期試験	筆記試験	・定期試験の準備

授業科目(ナンバリング)	中国語 I B (AC116)			担当教員	※劉 雲楓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業では、社会人として必要な幅広い教養やホスピタリティの精神を身につけるために、平易な中国語の文章を読み書きできるように学習し、リスニングとスピーキングはスムーズにできる能力の修得を目指す。また、アクティブラーニングの方法をもとにコミュニケーション能力の向上を図ることをねらいとしている。							②③⑧ ⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力で中国語の短文を朗読することができる。</li> <li>基礎的な会話ができるようになる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>中間試験</li> </ul>	20%	
情報収集、分析力	中国語の表現・理解の習得を図り、漢語圏の各国・地域の歴史や文化の学習に積極的に取り組むことができる。				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート</li> </ul>	5%	
コミュニケーション力	これから経験する言語活動の学習により、基礎的な中国語会話能力を身に付けるとともに情報発信力を付けることができる。				<ul style="list-style-type: none"> <li>発表</li> <li>小テスト</li> </ul>	20% 20%	
協働・課題解決力	中国語の基礎表現(読み・書き・聞き)と活用を図り、中国の文化などを理解し、互いに交流を深めることができる。				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度・授業への参加度</li> </ul>	5%	
多様性理解力	中国語を学ぶことを通して、中国及び漢語圏の社会、文化などに関心を持ち、異文化を理解できる。				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> </ul>	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>小テストは、第2回目から毎回行う。単語を主とする。</p> <p>中間試験は、1 回行う。基礎知識、授業内容の理解度の確認を主とする。</p> <p>定期試験は、筆記試験で、教科書や資料などの持込み不可。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>この授業は中国語の基本である発音を身につけ、基礎的な会話を習得させると同時に、これを通じて現代中国の文化や社会について理解させることを目標とする。授業方法としては、教科書を用いた指導を基本とする。内容が理解しやすいように、要点をパワーポイントによって解説し、定期的にプリント、視聴覚教材を用いることがある。また、課題レポートや小テストのフィードバックは授業中に適宜行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語・中西君と一緒に中国へ行こう！』朝日出版社</p> <p>参考書：授業を通して指示する</p> <p>指定図書：陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語・中西君と一緒に中国へ行こう！』朝日出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>中国語は正確な発音の習得が成否を決定する。授業の前も後も音読をしっかりと行ってください。多くの漢語圏の観光客が日本を訪れて、日本国内の企業が中国語に堪能な人材を今求められている。積極的に学んでください。</p> <p>教科書は各自必ず購入してください。購入しない場合には受講を認めません。</p> <p>授業中の私語、睡眠、理由のない遅刻、欠席、途中退室は認めません。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	「中国語 I A」の復習	声調、母音、子音、文法の復習 前期定期試験問題の解説	予習：シラバスを読んでおく。 復習：中国語 I A の復習
2	「住宿」(1)	願望を表す助動詞「想」 動詞「有」 本文	予習：P38～40 復習：肯定文、否定文、 疑問文
3	「住宿」(2)	ワードバンク ドリル	予習：ワードバンク 復習：本文 P40
4	「点菜」(1)	量詞 動詞の重ね型 本文	予習：P62～64 復習：数字のいい方
5	「点菜」(2)	ワードバンク ドリル	予習：ワードバンク 復習：本文 P64
6	「买足球票」(1)	時刻、時間の表現 状態の変化を表す文末の「了」 本文	予習：P68～70 復習：時刻のいい方
7	「买足球票」(2)	ワードバンク ドリル	予習：ワードバンク 復習：本文 P70
8	「做按摩」(1)	動作行為の完了を表す助詞「了」 本文	予習：P74～76 復習：状態の変化を表す文 末の「了」
9	「做按摩」(2)	ワードバンク ドリル	予習：ワードバンク 復習：本文 P76
10	「网吧」(1)	中間試験 前置詞「给」 助動詞「可以」、「能」 本文	予習：P80～82 復習：量詞、否定文
11	「网吧」(2)	模擬試験の解説 ワードバンク ドリル	予習：ワードバンク 復習：本文 P82
12	「打电话」(1)	動作行為の進行を表す表現 助動詞「会」 本文	予習：P86～88 復習：動詞「在」
13	「打电话」(2)	ワードバンク ドリル	予習：ワードバンク 復習：本文 P88
14	発音、文法の復習	発音の確認 動画鑑賞 1	後期全体の復習、発音の確認
15	まとめ	動画鑑賞 2 全体の重要事項の理解と確認	中国語 I A・I B の総復習、 重要事項の確認
16	定期試験	筆記試験	定期試験の準備

授業科目(ナンバリング)	中国語 I B (AC116)			担当教員	※石 一含		
展開方法	演習(遠隔)	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
中国語は中国だけでなく、シンガポールやマレーシアなどの国々でも幅広く使用されており、さらに近年中国のめざましい経済発展のため、アジアの世界だと言われている 21 世紀の現在、世界中に中国語の学習者が多くいる。中国語学習は大きな世界へ繋がるツールを手に入れることだと言えよう。本授業は中国語をゼロから始める初心者を対象に、ピンインから「中国語Ⅱ」「中国語会話」の基礎となる入門レベルの文法知識・実用表現を習得すること、及び中国語圏の文化への理解を深めることを目標とする。							①②③ ⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・入門レベルの文法知識・実用表現を理解、運用することができる。 ・平易な会話ができる。				・定期試験	15%	
情報収集、分析力	・中国(語)に関連する情報の収集に積極的に取り組むことができる。 ・様々な情報収集ツール(辞書、ネット等)を活用することができる。				・発表	10%	
コミュニケーション力	積極的に既習知識を活用し、中国語でコミュニケーションをとることができる。				・発表 ・小テスト	20% 15%	
協働・課題解決力	・授業中の様々な活動に積極的に参加することができる。 ・中国(語)への理解を深めるために、他人(教師や学生同士など)と積極的に交流することができる。				・授業態度・授業への参加度	15%	
多様性理解力	・言語：日中両言語の異同を少しでも理解することができる。 ・非言語：漢語圏の社会、文化に関心を持ち、多様性に対する理解を深めることができる。				・定期試験	25%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験の成績を 40%とし、筆記試験で既習した知識の習得状況を確認する。(教科書や資料などの持ち込み不可)</li> <li>・発表の成績を 30%とし、発音の正確さ、流暢さ及び発表の内容で評価する。(第 14 回目の授業で行う)</li> <li>・小テストの成績を 15%とし、毎回の授業で前回の内容を習得したかを確認する。(第 1 回目の授業を除く)</li> <li>・授業態度及び授業への参加度の成績を 15%とし、欠席回数や授業への参加度合などを基準に評価する。</li> </ul> ※ 発表、小テスト、口頭練習などに対するフィードバックを授業で行う。							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料：教科書を基本資料とし、パワーポイント(プリントの時もある)を補助資料として授業を行う。</li> <li>・進め方：「復習&gt;新出単語・本文&gt;文法解説&gt;ドリル&gt;答疑」の流れに従う。(変わる時もある)</li> <li>・目標：①ピンインを身につける ②入門レベルの文法と表現を習得する ③中国の社会文化について理解が深まる</li> <li>・この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
教科書：陳淑梅・劉光赤(2010). 『しゃべっていいとも中国語・中西君と一緒に中国へ行こう!』, 朝日出版社 参考書：特になし。適宜授業中に指示する。 指定図書：陳淑梅・劉光赤(2010). 『しゃべっていいとも中国語・中西君と一緒に中国へ行こう!』, 朝日出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と復習をすること(毎回授業後の復習をしっかりすれば、言語学習は楽になる)。</li> <li>・毎回の授業、必ず教科書と好奇心を持って積極的にご参加ください。</li> <li>・教科書以外の資料も活用すること(例:教科書の CD、参考書、辞書、歌、NHK テレビ・ラジオ番組 など)。</li> <li>・毎日 10 分間でも中国語を大きい声で読んでください。</li> <li>・中国(語)の魅力を発見し、学習意欲を維持すること。</li> </ul> ※ <u>中国語 I A を履修してから中国語 I B を履修してください。</u>							

中国語 I ・後期

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	「中国語 I A」の復習	前期内容の復習(第1課～第10課) シラバスの説明	予習：シラバスの確認 復習：前期の内容
2	第 1 1 課「聊天儿」(1)	年月日・曜日のいい方 年齢のいい方	予習：教科書 pp. 56～58; 復習：数のいい方、形容詞 述語文
3	第 1 1 課「聊天儿」(2)	ワードバンク・ドリル	予習：教科書 p. 59; 復習：年月日・曜日・年齢 のいい方
4	第 1 2 課「点菜」(1)	量詞 動詞の重ね型	予習：教科書 pp. 62～64; 復習：年月日・曜日・年齢 のいい方
5	第 1 2 課「点菜」(2)	ワードバンク・ドリル	予習：教科書 p. 65; 復習：量詞、動詞の重ね型
6	第 1 3 課「买足球票」(1)	時刻のいい方 「了」の用法(新事態の発生・状態の変化)	予習：教科書 pp. 68～70; 復習：量詞、動詞の重ね型
7	第 1 3 課「买足球票」(2)	ワードバンク・ドリル	予習：教科書 p. 71; 復習：時刻のいい方、 「了」の用法
8	第 1 4 課「做按摩」(1)	時間の長さのいい方 「了」の用法(動作行為の完了)	予習：教科書 pp. 74～76; 復習：時刻のいい方、 「了」の用法
9	第 1 4 課「做按摩」(2)	ワードバンク・ドリル	予習：教科書 p. 77; 復習：時間のいい方、 「了」の用法
10	第 1 5 課「网吧」(1)	前置詞「给」 助動詞「可以」、「能」	予習：教科書 pp. 80～82; 復習：時間のいい方、 「了」の用法
11	第 1 5 課「网吧」(2)	ワードバンク・ドリル	予習：教科書 p. 83; 復習：「给」「可以」「能」
12	第 1 6 課「打电话」(1)	動作行為の進行を表す表現 助動詞「会」	予習：教科書 pp. 86～88; 復習：「给」「可以」「能」
13	第 1 6 課「打电话」(2)	ワードバンク・ドリル	予習：教科書 p. 89; 復習：動作行為の進行を 表す表現、「会」
14	発表(グループ)	テーマ(未定)	予習：発表の準備; 復習：動作行為の進行を 表す表現、「会」
15	まとめ	後期内容の復習	復習：後期の内容
16	定期試験	筆記試験	定期試験の準備